

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-39C	12-099	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Moderate alcohol consumption may protect against overt autoimmune hypothyroidism: a population-based case-control study. 中等度のアルコール摂取は顕性自己免疫性甲状腺機能低下症に保護的に働くかもしれない：一般集団を対象とした症例対照研究		
執筆者		
Carlé A, Pedersen IB, Knudsen N, Perrild H, Ovesen L, Rasmussen LB, Jørgensen T, Laurberg P.		
掲載誌		
Eur J Endocrinol. 2012 Oct;167(4):483-90.		
キーワード		
顕性自己免疫性甲状腺機能低下症、アルコール摂取、症例対照研究		
要旨		
目的： アルコール摂取は多くの自己免疫性疾患の重要な保護因子である。本研究では、アルコール摂取と自己免疫性甲状腺機能低下症の関連を検討した。		
方法： 新しく顕性自己免疫性甲状腺機能低下症と診断された患者 140 人を症例群とし、症例群とマッチさせた対照群 560 人を、いずれも一般住民よりリクルートした。症例群は 2,027,208 人年前向きに観察した。対象者よりアルコール摂取状況、喫煙状況、既往歴、教育歴、甲状腺機能低下症の家族歴を得た。アルコール摂取と甲状腺機能低下症の関連は、条件付回帰モデルを用いて検討した。摂取アルコールは 1 単位 12g として計算に用いた。		
結果： 症例群は対照群に比べてアルコール摂取が有意に少なかった (週当たりのアルコール摂取量中央値 ; 3 単位と 5 単位, $p=0.002$)。多変量回帰モデルでは、アルコール摂取は、顕性自己免疫性甲状腺機能低下症発症のリスク低下に関連していた。発症のオッズ比 (95% 信頼区間) は、直近の 1 年のアルコール摂取量が週当たり 1-10 単位の群と比較すると、0 単位/週で 1.98 (1.21-3.33)、11-20 単位/週で 0.41 (0.20-0.83)、21 単位以上/週で 0.90 (0.41-2.00) だった。暦通りの 1 年で検討した場合も同様の結果を得た。アルコールの種類 (ワインとビール)、性、居住地の交互作用はみられなかった。		
結論： アルコール摂取は、性、アルコールの種類に関係なく、顕性自己免疫性甲状腺機能低下症発症にかなり保護的にはたらくようにみえる。		